



トピックス

小中一貫教育推進室だより「TSUNAGU」では、子どもたちの様子や教職員の実践をもとに、市内における小中一貫教育をはじめとした連続・一貫した教育活動の状況を共有していきます。

盾津東中学校区「厳しい状況だからこそ」

今年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響がある中、2学期から多くの中学校区において小中一貫教育の様々な取り組みが実施されています。

盾津東中学校区では、2学期より小学6年生の中学校登校が予定されています。9月は、第1回目ということでオリエンテーションが行われ、生徒会による学校紹介があったようです。6年生の子どもたちは、「1年間の流れが知れて安心した。」「制服を早く着てみたい」など、7か月後の自身の姿をイメージできていたそうです。その後、中学校教員による授業体験が行われ、授業をした先生からは、「昨年度も同じ授業をさせてもらったが、自分の意識が変わったのか、子どもたちが5年生から意識していたのか、昨年度以上にお互いとまどうことなく楽しく授業ができた。」と、中学校区として取り組むことによる手応えを感じたようです。

小中一貫教育コーディネーターの峯野先生は、「担当者間で、厳しい状況の中だからこそ取り組みの意義を共有し、出来る限りのことをやっていこうと前向きに検討することができた。」そして、森田代表校長先生は、「小学校最後の年に様々な制約を受けている6年生には、来春の入学にあたって明るく温かく迎えてあげたい、そのため小学校とはこれまで以上に信頼関係を深め、この子たちの成長につなげていきたい、そんなことを思いつつ6年生に様々な話をしました。聞いている真剣な姿に、かわいい大切なうちの子という思いがふつふつと沸いてきました。」と、次回の登校を楽しみにされていました。

厳しい状況でこそ、中学校区一体となった連続・一貫した教育活動が求められていると考えております。



小中一貫教育コーディネーター（Co）

小中一貫教育推進に向けての活動

夢TRY科で主体的・対話的で深い学びをどのように実現するのか。社会の課題をいかに自分ごととさせるのか。Coは、臨時休業期間中から、小中一貫教育推進のため、夢TRY科の研究をしました。



【ロイロノート・スクールを使っての討議】

この活動は、課題を自分ごととして考えるものになっているのかなど、たくさん議論しました。

【夢TRY科模擬授業】
説明したくなる気持ちを我慢して、どれだけ子どもたちに考えさせる場を確保できるのかを協議しました。



コロナ禍による社会の変化を通して、いかに未来社会を意識させるのか。来年度よりすべての子どもが使うこととなるタブレット端末を夢TRY科でどのように活用すればよいのかなど、「タブレット端末を活用する夢TRY科指導案」を活用される際にはCoへご相談ください。（裏面参照）



タブレットの活用によって授業が広がる

小見出し「安心の範囲」は、世界との「きょり」を題材にしています。世界の国々との物理的「きょり」は、昔も今も変わりませんが、移動時間の短縮や人の行き来によって変わる感覚的な「きょり」は、変わってきています。その中、違う国の様子まで意識の範囲を広げる必要があります。

現在、コロナ禍によって、世界の国々との「きょり」は、改めて考えさせられるものとなりました。子どもたちが、これらを自分ごととして捉え、これ

から生きる自分たちに何が求められているのかを考えるのが夢TRY科です。

タブレット導入のパイロット校である英田南小学校で、6年生が一人1台の端末を使って、「安心の範囲」を学習しました。授業を通して以下のような子どもたちの姿が見られ、夢TRY科の授業がタブレットの活用によって広がり、子どもたちの探究的な学習が充実すること気づきました。



テキストP64・65

【タブレットの活用による夢TRY科の充実】

「すぐに多くの意見を知れる。」



「つかむ」「探る」「考える」で示された課題に対して、クラス全体ですぐに考えを共有することができます。授業の中で、友だちの考えを何度も確認する姿がありました。

「自然と話し合いが始まる。」



正解のない問いに対する友だちの考えを知ることによって、「なぜこう考えたの」と、自然と話し合いが始まり、長い時間、意見交換をしていました。

「新しい発見が生まれる。」



話し合いが充実することにより、新しい発見や豊かな発想が生まれやすくなるなど、将来を意識する「考える」学習が充実します。話し合い後にタブレット端末の画面を確認しながら、自分の考えを更新していました。

「“学んだことをふり返ろう”が充実する。」



普通の授業ではなかなか時間の確保が難しい振り返りの共有が、容易にでき、次の学びや自分ごととして生活に生かすことにつながります。友だちの振り返りを熱心に読み込む姿がありました。

タブレット端末を活用する夢TRY科指導案を、2学期推奨の小見出しの中から、各学年1つ計7つ提供しています。

- 小3 「健康は時間のよゆうから」
- 小4 「社会でお金が決めるもの」
- 小5 「情報に思いをこめて」
- 小6 「社会に税金がなかったら」
- 中1 「生活を守る制度」
- 中2 「防災力は地域力」
- 中3 「生活を支えていく世代」

ぜひ、活用される際は、小中一貫教育コーディネーターへご相談ください。

「タブレット端末を活用する夢TRY科指導案」

